高梁 整備方針 結論

総社市 政は次なるステップへ

でこのことを表明 架橋の整備方針については らの答申を受け、 「建設を推進する」と決断 市議会とも議論を深については、8月2日 しました。 9 月 30 日

会に、 般質問や市議会全員協議会など 20 日、 高梁川新架橋整備方針審議 今後の整備方針を諮 そして、 市は「継続し、 市長は建設を進め 」という答申 9 月定例市 -を受 推進

こ完成している高梁川左岸側(中

の橋台から、高梁川と西部地区



進める」と表明しました。 会見が行われ、市長は「建設を架橋の整備方針についての記者 「白紙に戻し検討を」と今年 9月30日、 市役所で高梁川新

橋台は平成19年5月に完成 議会の初日、古けました。それを図られたい」 8 月 で議論を深め、 る方向で検討すると表明

決断にあたっては、審議会 苦渋の決断でした。 人が、「建設を推進する」と

橋の維持管理は県へ・

倉敷 (真備·船穂)

決断したことについて

還は、

市民に説明ができませ

大で8億円となる事業費の返

件に、 響を及ぼさないことなどを条 全な財政運営や他の事業に影 論しました。 全員協議会で数度にわたり議 く陳情に努力してほし 議会とは、 すなわち了承をいただき 新架橋の予算を獲得す 議会からは、 本会議と市議会

していきます。 管理についても県管理を要望 状道路を目指すことと、 倉敷市と総社市を循環する環 めから真備、 将来的には、 船穂地区を抜け 新架橋の西詰 維持

の45%は、 が国からの補助金です。 61億円の内、半分以上の55% の整備に必要な事業費の総額 新架橋を含む清音神在本線 合併特例債 (返済が

> **^** の環状道路実現へ 下の表のとおり、 の持ち出し(一般財源)です。 補助される有利な借入金) と市 しのピークは平成25年の32 0万円と計画しています。 市の持ち出

に、 されます 公債費比率は17 度まで続きます。 併特例債) は、 17年償還ですので、 清音神在本線の借入金(合 平成26年度の完成予定で 平成30年度の約2億円 その時点でも実質 3年据え置き 道路部分とも 返済のピ 18%と予想 平成46年

総社市を目指し、 に取り組み、新たな自立する で以上の財源確保や企業誘致 げを損なうことなく、 といった身近なテー 主義や子育て主義、 プへ市政を推進します。 新架橋の建設により、 次なるステ ・マの底上 人材育成

地域

H 岡 18

年度 事業費

■清音神在本線の財政計画 補助金 合併特例債 市の持ち出し 17 1億2000万円 6600万円 5130万円 270万円 18 1億3200万円 705万円 3億900万円 1億6995万円 19 3億9800万円 2億1890万円 1億7010万円 900万円 20 1億円 5500万円 4270万円 230万円 21 2億9000万円 1億5950万円 1億2390万円 660万円 22 4億円 900万円 2億2000万円 1億7100万円 23 4億9500万円 9億円 3億8470万円 2030万円 24 13億9000万円 7億6450万円 5億9420万円 3130万円 25 14億5000万円 7億9750万円 6億1980万円 3270万円 26 7億4300万円 4億865万円 3億1760万円 1675万円 合計 61億円 33億5500万円 26億730万円 1億3770万円

> 9月30日に行われた記者 会見で、建設を進めるとい う決断にいたった経緯など について話す片岡市長

問い合わせ 土木課土木係 **25** 92 8 2 9 1

将来の財政見通しにも確証が るなど、 済波及効果や交通の利便性の からの「建設を推進」という答 し判断しました。 つは、 2つの私の役割を加味 災害時の代替道路にな 渋滞緩和・解消と併せ、 市民のためになる橋 企業誘致などの経

感をもう一度作りたいという 以上争いをやめ、 ったことを払拭し、 で市を二分し、政争の具とな であると判断しました。 もう1 大所高所から決断しま 点は、「賛成」「反対」 この2つを加味し 市民の一体 もうこれ

また、建設中止により、

市民 を作 なる橋 断から決断

しました